



第  
10  
回

海草支部

和歌山市支部

那賀支部

伊都支部

有田支部

# 紀州さんぽ数珠つなぎ

新宮支部

串本支部

田辺支部

日高支部

## 「大野城」



紀伊半島2順目となりました「紀州さんぽ数珠つなぎ」、トップバッターの海草支部です。

現在、巷を騒がせている映画「火天の城」みなさんご覧になりましたか。安土桃山城建築を請負った宮大工・岡部又右衛門の感動のストーリーです。何かと話題の映画界で建築が取り上げられるのは珍しく、とかく邦画で日本建築が大々的に取り上げられることは珍しいです。

そこで、今回はこの話題の映画人気に乗っ取り海草支部に残る大野城をレポートしたいと思います。

大野城は海南市大野中、長峰山系の東西の尾根上、海南湯



浅道路を南下する際、海南IC手前あたり左手に見える山の頂上付近に立地します。歴史は古く、南北朝争乱期に仁義荘(現・下津町)を拠点とする南朝方勢力によって築かれたと推定されます。歴史上脚光を浴びるのは山名義理の入城からです。1378年北朝方の紀伊守護に任ぜられ1382年藤白城を攻略し、

1385年海南市北野上にある大旗山の篠が城にいる楠木正久一族を平定して紀伊の南朝勢力を鎮圧しました。そして、府中(和歌山市)にあった紀伊国守護所を大野郷へ移転したと伝えられます。山名氏は日本66か国の内11か国の守護を山名氏で占めていたので「六分の一衆」と呼ばれ幕府から警戒されていました。その後大内義弘に追われた山名氏は船で由良へ逃げ熊野、伊勢へ落延びたとされたといわれます。その後、大内義弘・畠山基国と城主が代わり1460年から1466年の間に守護所を広城(有田郡広川町)へ移したと言われます。

これらの基本的な知識を元に、現在も残る大野城跡地へ向かう

ことにしました。海南高原に向かう途中、雨の森を越え舗装された道も終わり悪路を進むこと数分、大野城跡地へと続く登山道に辿り着きます。車で走る途中眼下には海南市内を一望できるスポットもあります。かつて熊野街道と高野街道の分岐点にもあたり、日方湾にも近くここが城としての要所であったことは言うまでもなく、この地にお城が築かれた理由がよく分かります。車を道傍らに停車させ、ここからは徒歩にて進みます。まずは鉄塔を目指し、しばらく登り道を進み、折り返す



ように城跡へ向かってさらに登っていきます。さらに険しい獣道を30分ほど歩いて城跡地に到着です。現在は石碑とお城にまつわる解説文が添えられた立て札があるだけの広がった草むらがあります。建物形跡はありませんが、敷地に3つ高低差が現在も確認できます。資料によれば一番南に位置する高段に桁行7.8m、梁間3.6mで4間から2間の建物があり、木端葺きもしくは檜皮葺きの建物があったのではないかとのことです。正に幻のお城と言っても過言ではありません。

しばし、この敷地にたたずみ、霧曇る景色に目を配っていると(眼下の景色が見えない状態)あたかもタイムスリップしたかのような気持ちになりました。現在でも近づくのが困難な状態です。岡部又右衛門と同様幾重のドラマがこの場所にあったのであり、紀



州材がふんだんに使われた立派なお城であったと思われます。建築家の中には日本建築の中でも城郭建築に感心を持つ人も少なくありません。紀州藩第5代藩主徳川吉宗の鎮座していた和歌山城に比べれば現在は姿も無く実にひっそりとしたお城跡地です。しかし、この場所にもお城があったことはまぎれも無い事実であり、地元で建築に携わる人間として多くの市民の方にこのお城の事を知ってもらい、後世に語り継いでいければと思います。

参考文献：紀伊国大野城 海南市立歴史民族資料館編  
協力：海南市教育委員会 矢倉氏

海草支部 東端秀典